

新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

岩手県高等学校体育連盟
軟式野球専門部
(令和 4 年 9 月 1 日)

1 ◆基本方針◆

以下を基本として新型コロナウイルス感染防止対策を講じる。

オミクロン株 (BA5) は従来株と比較し、より感染性、伝播性が高いことを踏まえつつ、これまでの基本的な感染対策を再度徹底していく必要がある。

1. 3つの密 (密閉、密集、密接) を徹底的に回避する。
2. 大会関係者、チーム関係者に対して毎日の検温および体調チェックを実施する。
3. こまめに手洗い、手指消毒を行い、咳エチケットを徹底する。
4. 本ガイドラインにおいて、特段の定めがない限りマスク着用を行う。
5. 大会関係者、チーム関係者は大会開幕の2週間前から健康チェックシート、行動歴記録表 (様式 A) を記入し、感染者が発生した場合に備える。

2 ◆大会方式◆

1. トーナメント方式による「入場対象者を限定した有観客試合 (入場制限あり)」とする。
2. 入場対象者は保護者、学校関係者とし、責任教師が提出する入場申請書にて申請された方を対象者とする。
3. 観客入場上限人数については、当該地域の感染状況、行政の指針に沿って対策を講じる必要があり、当該行政が定めるイベント開催に関する事項を遵守することが条件とされている。

岩手県復興危機管理室 (令和 3 年 12 月 15 日更新) による開催制限を踏まえ、当連盟大会役員・補助員がスムーズな運営を図るための観客入場上限人数 3,000 名 を目安とする。

表 1 花巻球場における観客入場上限人数

球場名	球場収容人数		観客入場上限人数
花巻球場	メイン 内野スタンド 5,700 人	12,000 人	保護者 + 学校関係者 (控え部員含) = <u>3,000 名</u>
	外野スタンド 6,300 人		

3 ◆入場制限◆

次に該当する方の球場への入場を禁止する。なお、入場制限に関して事前にホームページなどで周知し、特に以下 1. ~ 2. の該当者については自己申告を促すよう努める。

1. 過去 1 週間以内から来場日までに下記 (1) ~ (6) を含む体調不良のある方
 - (1) 体温 37.5℃以上
 - (2) 強い倦怠感
 - (3) 咳、咽頭痛、息苦しさ等
 - (4) 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - (5) マスク非着用の方
 - (6) 入場時に氏名、連絡先記入に協力いただけない方
2. PCR 等検査陽性歴があり、
 - (1) 有症状者では、発症日から 10 日未満、かつ、症状軽快後 72 時間以内
 - (2) 症状軽快後 24 時間経過から 24 時間以上の間隔を空け 2 回の PCR 検査で陰性を確認できて

いない

- (3) 無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満
- (4) 検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあげ2回のPCR検査陰性を確認できていない
 - ① 濃厚接触者として自宅待機中
 - ② 家族が濃厚接触者として自宅療養中
 - ③ 家族に上記1(1)～(4)いずれかの体調不良がある
 - ④ 海外から帰国(日本に入国)して14日以内
 - ⑤ 原則としてマスク非着用の方
 - ⑥ 入場時に氏名、連絡先記入に協力いただけない方

4 ◆大会実施に係り◆

1. 開催可否の検討

- (1) 政府または岩手県から「緊急事態宣言」などに伴うイベント開催自粛などの措置がとられた場合。
- (2) 岩手県教育委員会から次の指示が出た場合。
 - ① 学校の休校・部活動の自粛要請
 - ② 学校の通常授業・部活動の自粛要請
 - ③ 学校の通常授業・大会自粛要請

2. 感染者が発生した場合の対応

- (1) 球場で観戦後、14日以内に感染者となった場合、大会中であれば大会本部、大会後であれば高体連軟式野球専門部(盛岡商業高校内)まで連絡をしてもらう。
- (2) 主催者(高体連軟式野球専門部)は試合会場となる球場とも情報共有し、保健所の指示に従い、ホームページで感染者発生の情報発信や周辺座席で観戦した観客への連絡など然るべき措置をとる。

3. 参加校の大会参加可否の判断基準

- (1) 大会中、参加校から「感染者」ならびに「感染の疑われる者(濃厚接触者)」が判明した場合、責任教師は高体連軟式野球専門部まで『感染者数』、『行動歴』、『保健所の指示内容』等を報告する。
- (2) 当該校は「感染者」、「感染が疑われる者」の『人数』や『行動歴』、『保健所の指示』を踏まえ、当該校校長が参加の可否を判断する。
- (3) 主催者(高体連軟式野球専門部)は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況(部内での集団感染や集団感染が予見される等)によっては出場を差し止めることもある。

4. 選手変更

- (1) 大会前、大会中に「感染者」、「感染が疑われる者」が発生し、チーム内での集団感染ではなく個別の事案と判断した場合の選手登録変更については、当該試合の開始前まで変更可とする。

※ 岩手県高野連選手登録ファイル「大会参加者変更届(選手)」を活用する。尚、その際には「療養期間」「待機期間」を記すこと。

- (2) 上記4.(1)によって、一旦選手登録を変更した選手で、療養期間・待機期間を終えた選手は再度登録することとする。ただし、再登録をする場合は当該選手に代わって入った

選手のみ入れ替えの対象とする。

5. 岩手大会終了から東北大会までに代表校から「感染者」、「感染が疑われる者」が発生した際の対応
 - (1) 岩手大会終了後、東北大会までに代表校から「感染者」、「感染が疑われる者」が発生した場合は可能な限り選手変更等で対応する。
6. 大会終了後の健康観察
 - (1) 大会関係者、参加校チーム関係者は大会を終えた後、14日間以内に新型コロナウイルスに「感染」した場合、あるいは「感染が疑われた」場合は速やかに高体連軟式野球専門部に報告する。

5 ◆参加校の対策◆

1. 移動
 - (1) 試合会場へ移動の際はマスクを着用し、会話を控え、手指消毒を励行する。
 - (2) バスで移動する場合、適宜換気を行い、人と人との間隔を空けて座ることとする。公共交通機関の場合は混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。
 - (3) 移動中や試合会場で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避ける。
 - (4) 宿泊は極力控えることとし、やむを得ず宿泊する場合も3密回避やマスク着用など感染対策を講じる。その場合、不要不急の外出は行わず、外部との接触は極力避ける。
2. 球場入場時
 - (1) チーム関係者は起床後検温、体調チェックを行い、その結果を責任教師は健康チェックシート（様式A：チーム用健康チェック表・控え部員用入場申請書）に記載したうえ、球場到着後、入場受付へ提出する。起床後あるいは球場入場時に 37.5℃ 以上の発熱や体調不良（倦怠感、息苦しさ等）が発生した場合は、球場への来場、入場することを禁止し、速やかに医療機関を受診する。その場合、責任教師は速やかに大会本部まで連絡する。
※ 「健康チェック表」「入場申請書」等の様式各種は各校へメールで送信する。
 - (2) 球場入りは、27名以内に制限する。内訳は、選手資格証明書に登録された者として、選手20名・記録員1名・責任教師1名・監督1名・ノッカー1名、合わせてノック補助員（兼ボールボーイ）3名。
※ 荷物の運搬は、ベンチ入りメンバーおよびノック補助員（兼ボールボーイ）にて行う。
※ 副部長およびコーチ等の球場入りは登録済であっても控えることとし、スタンド待機・観戦を原則とする。ただし、大会役員としての割当てがなされている場合は、その限りではない。
 - (3) 球場到着後、各校責任教師が提出した「入場申請書（控え部員用）」を基に、大会役員が控え部員の健康状態を確認のうえ、待機場所へ誘導する。
 - (4) 球場の入退場時、各チームはマスクの着用を徹底し、検温および手指消毒を行う等の感染予防に努める。各チームの着用マスクについては、不織布のマスク（白）が望ましいが、その判断は各チームに一任する。ただし、マスクの色はチーム統一とし、商標が表に見えるものは使用を不可とする。
 - (5) 試合前後の控室等の使用は、原則控えることとする。
 - (6) 次試合の出場チームの待機場所は、原則スタンドとする。外野側のスペースを使用する等、一般観戦者への配慮を心掛ける。

3. 試合に関して

- (1) 球場内には消毒液を設置してあるので、適宜手指消毒を励行する。
- (2) ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務付けない。ただ、球場外でウォーミングアップをする場合、観客近くで行うこともあるため、マスク着用をすることが望ましい。
- (3) 試合開始前、終了時に整列する際、選手は手を腰に当てて、隣の選手とぶつからない程度の距離を空けて挨拶を行うこととするが、発声を控え一礼のみとする。試合終了後の校歌斉唱時も同様に整列する（斉唱は可）。なお、相手チームと握手などは行わないようにする。
- (4) 円陣を組む時など、密集にならないよう注意し、一定の距離を保つ。また試合中、マウンド上で集合する際はグラブを口に当てることとする。
- (5) 試合中、素手によるハイタッチや握手を控えることとし、自身の目、鼻、口なども触らないようにする。
- (6) ダッグアウト内では密集にならないよう、出来る限り人と人との距離を一定間隔に保ち、ペットボトルやコップなどの共用は避ける。
- (7) 試合中、ダッグアウト内の責任教師、監督、選手、記録員ならびにボールボーイは熱中症対策を十分に講じてマスク着用をする。グラウンドでプレーしている選手は、マスクの着用は義務付けない（ベースコーチを含む）。
- (8) なお、気温・湿度や暑さ指数が高くなる中マスクを着用することで、熱中症のリスクが更に高まるおそれがあることから、その場合には熱中症対策を優先し、マスクを外すこと。責任教師は状況に応じてマスクを外すよう指導すること。
- (9) チームの共用用具として考えられるもの（バット、ヘルメットなど）に関しては、こまめに消毒を励行する。
- (10) 大会において、各チームに投手用ロジンを配付するが、そのロジンは自チーム専用とし、相手チームとの共用を避ける。

4. 試合後

- (1) 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師管理下にて当該校が行う。
- (2) 次の試合の出場チームとの入れ替え時における接触を避けるため、速やかにダッグアウトを空ける。次の試合の出場チームは、本部の指示に従い、前試合の出場チームが退場してからの入場を原則とする。
- (3) 大会役員の誘導により定められた動線に従い必要に応じて取材対応を行う。

5. 選手・控え部員の入退場動線

第1試合 …… 球場入りが許可されている者は、正面入口より入場するが、控え部員は3塁側スタンド入り口から入退場する。

第2試合 …… 球場入りが許可されている者は、正面玄関から入場するが、待機場所はスタンドまたは室内練習場とする。控え部員は3塁側スタンド入り口から入退場する。入場後、控え部員は一般観戦者から離れた位置で待機する。

6

◆大会関係者（競技役員、補助員、審判委員、看護師、医師、PT）の対策◆

1. 移動

- (1) 移動の際はマスクを着用する。公共交通機関を使用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。

2. 球場入場時、球場内

- (1) 起床後検温、体調確認を行う。その際、37.5℃以上の発熱や体調不良（倦怠感、息苦しさ等）が発生した場合、来場は禁止する。また、球場入場時にも37.5℃以上の発熱や体調不良のある場合は、球場への入場を禁止する。
- (2) 球場内、外に設置する消毒液でこまめに手指消毒を励行する。
- (3) 球場内は常にマスクを着用する。なお、熱中症のリスクが高まるおそれがある場合には熱中症対策を優先し、マスクを外すこと。
- (4) 球場内で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避ける。

3. 審判委員について

- (1) 審判委員への給水は、控え審判等に依頼する。感染防止を踏まえ、タオル等の提供は行わない。
- (2) 審判委員の試合前の用具点検用として衛生手袋を用意する。
- (3) 試合中のマスク着用は球審・塁審ともに義務付けないこととする。

7 ◆観戦者の対策◆

1. 球場入場時

- (1) マスク着用、検温、手指消毒実施の上、入場する。
- (2) 入場者は原則、責任教師より提出された「入場申請書」に名前が記載されている方のみとする。
- (3) メガホンを叩く等の応援活動は応援エリアのみで行う。

2. 観戦中

- (1) 大声を出して声援を送る、合唱することは控える。
- (2) ハイタッチや得点時に座席の上に立つ、1ヶ所に集まる行為は控える。
- (3) マスクの着用、咳エチケットを遵守し、球場内設置の消毒液で手指消毒を励行する。
- (4) ソーシャルディスタンスをとって観戦する。
- (5) 座席番号の記録徹底の呼びかけを行う。観戦者には席や座席番号をスマートフォン等でカメラ撮影し記録することを促す。あるいは、入場券に座席番号を記入し、自分の座席位置を確認できるよう、入場券を最低14日間保管するよう促す。
- (6) 着席後、球場内は目的地（トイレなど）を決めて移動することとし、球場内の不必要な回遊を避けるよう求める。
- (7) なお、屋外において、人との距離（2m以上を目安）が確保でき、かつ会話をほとんど行わない場合においては、熱中症予防の観点からマスクを外すことを推奨する。
- (8) 以下の応援行為を認めることとする。
 - ① プレーに対する拍手（チーム毎に工夫した拍手も可）
 - ② メガホンの使用（ただし、声援（発声）するための使用は禁止）
 - ③ 太鼓の使用（応援エリアに洋太鼓・和太鼓それぞれ1個ずつまで持込可）
 - ④ 楽器（ブラスバンド等）の使用。
 - ⑤ 楽器（ブラスバンド等）を使用しない学校は、自校のブラスバンドや応援リーダー等で録音した音源を試合中の攻撃時にスピーカーで流すことを認める。但し、日々練習に取り組んでいる参加校のブラスバンド部員や応援リーダーに対する教育の一環としての救済策であるため、参加校のブラスバンド部が演奏したものや応援リーダーの肉声のみを音源とする。また、スピーカーは各参加校で用意することとし、電源は球場

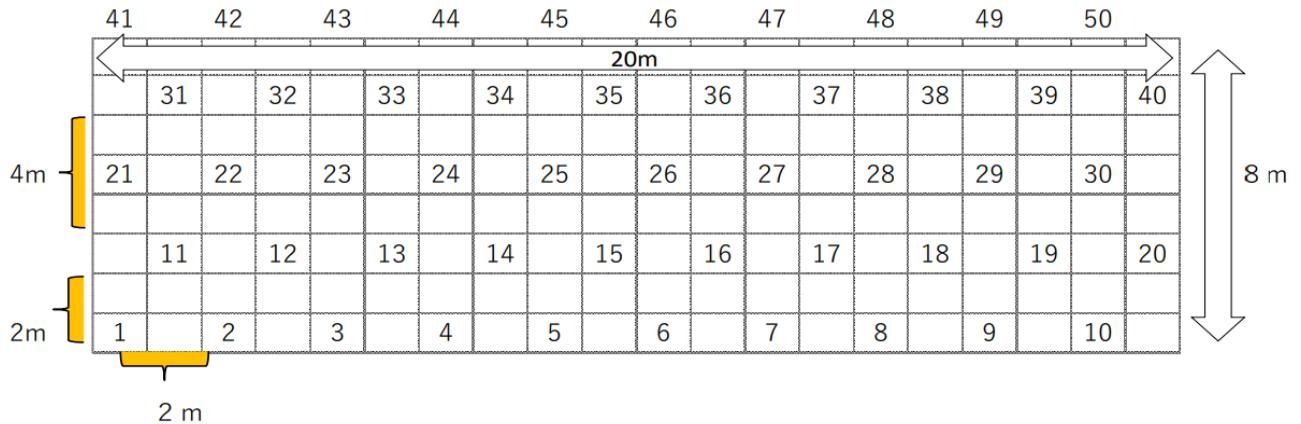
のものを使用できることとする。

⑥ 応援リーダー、チアリーダーについても入場を認める。

(9) ブラスバンドの入場に関しては、以下のことを遵守できることを条件として認める。

- ① ブラスバンド入場が可能な人数は 50 名以内（楽器を使用し応援する生徒）を原則とする。
- ② ブラスバンド入場場所に関して、隣の演奏者と 2m、前後の演奏者と 2m は必ずソーシャルディスタンスを取ることとする（下記：ブラスバンド配置図（例）を参考とする）。また、対面を避け、横並びで演奏する。

例) ブラスバンド配置図(50名の場合) ※番号は、人の位置 ※横と前後の人との間隔は 2 m



- ③ 楽器の特性から特にフルート、ピッコロ、クラリネット、トロンボーンは他楽器の奏者との距離を十分に空けるよう留意する。
- ④ 結露は十分に注意して処理する。各自タオルを持参し、常にタオル専用袋を用意して厳重に管理する。処理する際は、楽器にタオルを近づけて行い、周囲に飛沫が飛ぶことを防ぐ。
- ⑤ マウスピースのみを使用して音出しを行う際は、マウスピースの先端付近にタオルを近づけ、周囲に飛沫が飛ぶことを防ぐ。
- ⑥ 譜面、譜面台、打楽器のスティック等の道具は共有せず、個人管理とする。
- ⑦ 楽器を使用したアクションは行わず、常に座って正面を向いて演奏する。
- ⑧ 万が一、ブラスバンド部員が球場来場から 14 日以内に感染が判明した場合は、速やかに高体連軟式野球専門部に連絡すること。

8 ◆報道（メディア）・写真（VTR）業者関係者の対策◆

1. 報道各社には、報道受付で入場申請書に必要事項を記入・検温・手指消毒を行い、マスク着用のうえ入場を許可する。
2. 記者室の使用は原則不可とし、スタンド等屋外にて取材を求めることとする。スタンドでの分散取材、球場内の移動は必要最低限にとどめるよう求める。（報道各社の腕章の装着を促す）
3. 取材態勢は、「新聞・雑誌・ラジオ（非中継）は 1 社 2 名まで」、「テレビ（非中継）は 1 社 2 クルー（4 名まで）」を原則とする。
4. 写真[VTR]業者（チーム委嘱）においても上記 1. の事項を原則とし、対応する。
5. 試合前の選手や監督への取材は禁止する。試合後においては、責任教師の承諾があれば選手の短時間での取材を許可する。ただし、取材場所は球場外とし、選手とメディア関係者との距離（およそ 2m）を十分に確保したうえで、5 分以内で終わることを義務付ける。なお、監督の取材に

については、監督本人が了承すれば前述の条件での取材を許可する。

6. 球場内で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避けるよう求める。

9 ◆その他◆

1. 本ガイドラインは令和4年9月1日時点のものであり、今後の感染状況や政府行政からの指針をもとに変更する場合がある。
2. なお、本ガイドラインに記載されていない事象や不測の事態が発生した場合、岩手県高体連事務局、岩手県高野連事務局、関係各所が連携のうえ対応にあたることとする。
3. 新型コロナウイルスの猛威は未だ衰えていない現状を踏まえ、感染防止対策を徹底したうえで大会運営にあたること。
4. 本大会の大会方式については、「有観客試合」を原則としつつ、感染状況次第では「無観客試合」に切り替える場合もある。
5. 健康チェック表・入場申請書等の扱いについては、記載から2週間は高体連軟式野球専門部が責任を持って管理し、その後シュレッター等にて確実に破棄する。